

---

---

# 2016年度 事業報告

---

---

特定非営利活動法人 大阪府民環境会議

自 2016 年 4 月 1 日至 2017 年 3 月 31 日

## <目 次>

### I. 事業の概要

### II. 事業の実施状況

1. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造活動への府民の啓発を目的とした教育・  
広報に関する事業
  - 1-1 OPENcafé
  - 1-2 ECOもんツアー
2. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造に向けての情報の収集・発信、調査研究に  
関する事業
  - ホームページによる情報発信とネットワークの強化
3. 地域に根ざした持続可能な社会・循環型まちづくり及び環境教育のためのネット  
ワークづくり、情報基盤の整備に関する事業
  - 1-1 天神祭ごみゼロ大作戦(大阪市市民活動助成事業)
  - 1-2 里山農空間保全活動(大阪自然環境保全協会と連携)
4. ネットワーク
  - OPEN が加盟する団体

### III. 総会の開催状況

### IV. 理事会の開催状況

### V. 会員状況

## I. 事業の概要

2016年度の国内外情勢には次のような特徴がありました。

世界の温室効果ガス排出量を実質ゼロをめざす「パリ協定」が、昨年11月4日に発効しました。

そして第1回締約国会議が引き続き開催され、パリ協定と一体となる運用ルール策定に着手したことは画期的でした。今後、パリ協定の実効性を高めるために、CO2排出量削減と達成年の目標引き上げを促す仕組みづくりや途上国の対策など詳細ルールは、2018年開催される国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）で決められます。

各国は、この「マラケッシュ行動宣言」に沿って、目標や対策強化を促す行程表を策定し2018年までに合意することが大きな課題となっています。

日本政府は、COP22で脱炭素や再生エネルギーに向かう世界の潮流から後れを取りもどすために、国内の2030年までの排出削減目標の引き上げと政策の実施や原子力と石炭火力発電を推進策の抜本見直しと実効政策の実施などが求められています。

東日本大震災（2011年3月11日）による福島第1原発重大事故により福島を追われた人々は、避難者集団訴訟に踏み切りました。3月18日の前橋地方裁判所の判決では「津波は予見できたのに、その対策を怠った」として、国と東京電力に賠償命令が下されました。この判決の重みは、責任所在が国と東京電力にあることを法的に明確にしたことです。

未来へ負の遺産を引き継がないために、この時代に生きるものの使命として、脱原発そして脱炭素の再生エネルギーの実行計画が急務となってきています。

大阪では、公共用地ではメガソーラーを中心に進み、また民間では生協における大規模ソーラー発電が建設されています。市民が見える電気が暮らしの中にできつつあります。大阪府では市民共同発電所への助成金制度の創設され、今年度は豊中の保育園と吹田の障がい者作業所での発電が開始されました。また、市民の寄付金による共同発電所づくりも大阪府下ですすんでおり、エネルギー大消費地の都市部での市民に見えるエネルギー源の創出が喫緊の課題といえます。

福島原発事故による健康被害について、事故の収束の目処がつかず、汚染水の海への大量流出も止まらず、さらに、子供の甲状腺癌が年々増加、原発労働者の健康被害も新たにクローズアップされ、また、避難者差別が各地で引き起こされています。今後長年に及ぶ被害者の拡大について、福島の人々へ寄り添い支援することも環境活動の一貫と考えます。

事業の特色は、地球温暖化防止・地球環境の保全に向けた実践行動として2つの事業を開始し、市民参加を促すことでした。

一つには、資源循環型活動と協働による「天神祭りのごみを考える会」として、広範な市民運動としていくために、大阪市市民活動推進事業の助成をうけ、イベント時におけるリユースの推進の3年間事業の1年目として日本の三大祭りで来場者が最も多い天神祭会場における「天神祭ごみの実態調査と組成調査」を実施しました。この実施にあたっては、リユース食器を導入し、ボランティアによる分別回収ステーションを設けてごみ減量効果を上げている「祇園祭ごみゼロ大作戦」と連携しました。

二つには、都市型農業の重要性と都市の自然環境の保全に向けて、大阪自然環境保全協会と連携した「里山農空間保全の事業化」にむけ、大阪府下における水田の耕作放棄地を活用した実践の初につきました。

また、大阪における生物多様性の重要性と自然環境をネット配信する試みとした「淀川さんぽ」

では、大阪湾から京都に至る淀川の野草、野鳥、魚等の観察を季節ごとに配信しました。

当会の特色である多様なジャンルの団体のネットワークを活かし、各団体間が互いに情報交換し、多くの市民参加を促し、環境を良くする実践のひろばとしての緒につきました。

## II 事業に実施状況

### 1 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造活動への府民の啓発を目的とした教育・広報に関する事業

#### 1-1 事業名 OPENcafé

目的 地域の環境保全活動に取り組む会員団体が企画して、参加者同士が共感し合いながら、環境行動に一步を踏み出すきっかけの場づくり。

##### 第1回生物多様性保全「農と里地の未来を考える」

日時 8月24日

場所 大阪自然環境保全協会 会議室

参加人数 10名

講師 手塚等史さん（農業家・保全協会協力会員）

内容 大阪における耕作放棄地を少なくしていく取り組み1年間計画案の作成

##### 第2回生物多様性保全「未来への自然と農保全の仕組みづくり」

日時 1月14日

場所 大阪市立大学文化交流センター

参加人数 20名

講師 糸野千代子さん（ありがとう農園園主）

田中文夫さん（農業家）

内容 豊能町で米作りをしているありがとう農園では、作付面積を減らし手作業で農薬を使わない手法で、手間をかけることで収穫量が上がったこと。年間計画でボランティア応援隊の受け入れをしていることなどの提案。マコモダケ栽培の実践と株分けで大阪府下の水田放棄地を減らしていくこと。ありがとう農園の田んぼでも試みていくなど。



ありがとう農園での田植風景

#### 1-2 事業名 ECOもんツアー

##### 第1回淀川さんぽ 淀川のアユの遡上見学会

日時 6月12日

場所 淀川大堰

講師 柳沼 宣裕さん（桂川流域ネットワーク）

参加人数 10名

内容 アユの遡上のピークが5月中旬ぐらいまでのため目視はできなかったが、淀川を遡上するアユが日に千匹単位で淀川大堰の魚道で観察されること。京都付近で夏には大きくなっていることなど、次年度に結び付けられた。写真は参加いただいたよがわおもちゃ病院のボランティアさんが手品のサプライズ。



第2回淀川さんぽ つばめのねぐら入り見学会

日 時 8月8日

場 所 宇治観月橋・宇治川公園

講 師 清水俊雄さん（堺野鳥の会）

参加人数 5名

内 容 当初予定の高槻上牧鵜殿には営巣しておらず、上流地に切り替えた。観察会の日、燕の営巣観察日に遭遇し、燕の捕獲と足環づけの見学と撮影という貴重な撮影日となった。



園主のお話を古民家レストランで聴く

第3回生物多様保全「杉・五兵衛園主の実践」

日 時 12月10日

場 所 杉・五兵衛（枚方市）

講 師 園主 の島 五兵衛さん

参加人数 10名

内 容 園主より、都市型農業の重要性と推進していくために法制度の整備のため関係省庁への働きかけを長年行い、農水省が「都市農業振興基本計画」を2016年5月に策定され法整備への一歩を踏み出したこと。都市の空地の農業用地活用、市民農園の有用性のお話があった。

第4回 淀川さんぽ

日 時 12月12日

場 所 十三干潟付近

参加人数 4名

講 師 清水俊雄さん（堺野鳥の会）

内 容



カモと左はチョウケンボウ

第5回 淀川さんぽ

日 時 3月17日

場 所 城北ワンド

参加人数 3名

講 師 清水俊雄さん（堺野鳥の会）

内 容 ヨシハ原群生で28種さらに、絶滅危惧種のチュウヒが優美な姿を観祭



2. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造に向けての情報収集・発信、調査活動に関する事業目的：OPENの自主事業を継続拡大し、さらに企業市民へのアプローチをしていくため報発信量の増加とネットワークの強化をしていく。
- 成果：淀川さんぽの継続した配信、天神祭ごみの実態・組成調査のボランティアによる活動の動画配信（環境情報ピコの協力）、OPEN café、ECOもんツアーの参加呼びかけ、報告を逐次掲載でた。
- 課題：参加報告等の周知徹底など、情報の迅速さが問われる。

3. 地域に根ざした持続可能な社会・循環型まちづくり及び環境教育のためのネットワークづくり、情報基盤の整備に関する事業

①天神祭ごみゼロ大作戦（仮称）3か年計画に1年目は、会場におけるごみの実態とごみの組成調査を実施した。（平成28年度大阪市市民活動助成事業）

日本の三大祭のひとつとして来場者が130万人と日本一多い人出があり、それだけごみの散乱が多く、ごみの発生源をなくしていくことを目的として行った。

ボランティア募集したところ59名の応募があった。

①祇園祭ごみゼロ大作戦に学ぶこととして、1名を実行委員会に派遣

②ボランティア説明会の開催（2回）

③祇園祭ごみゼロ大作戦（7月16日）に参加 12名

④天神祭ごみの実態を7月24、25日に実施。ボランティア述べ59名

⑤ごみ組成調査（7月26日）は、大阪産業大学 花嶋温子先生に現地指導していただいた。大川南公園にて約100キロのごみを32品目に仕分け、各項目ごと重量計測し、結果の分析を花嶋先生に依頼した。

⑥ボランティア参加者の振り返り会議2回開催（9月7、14日）参加者23名

⑦報告会の開催

- ・関係者報告会 10月26日 ドーンセンター 参加者12名
- ・市民向けセミナー 11月12日 中央公会堂 参加者 名  
地球温暖化防止センター（3R）が主催
- ・大阪市市民活動推進助成事業中間報告会

11月18日 イオンモール鶴見緑地店



雨天の中テントを張って、大川南公園にて組成調査



32品目に分けたごみの量、多くはペットボトル、缶びんなど資源物とごみのおおくは食品トレー。お祭りに出たごみの量60t

②里山農空間保全是、大阪自然環境保全協会が窓口となり、農業者から農業の担い手づくりの場として、能勢町、豊能町での有機栽培の実践から基盤をつなぎ、継続して事業化できる関係性づくりの1年、継続し事業化に向けての2年目とした。

4. OPENが加盟する団体（加盟順）

1. なにわエコ会議

大阪市が設置した市民・環境NGO/NPO・学識経験者・行政が参加する協議会にNPOとして参加

## 2. 自然エネルギー市民の会

自然エネルギー普及を進めるための活動を目的に 2004 年に設立。

## 3. 温暖化防止ネットワーク関西

関西における地球温暖化防止活動のネットワーク。世話人として参画。

## 4. 生物多様性かんさい

COP10 を機に関西圏に拠点のある市民団体でつくったネットワーク

## 5. 大阪ごみ減量推進会議（2011 年 10 月 1 日設立）

大阪府民環境会議の 3 R 分野のネットワークおよび活動の継続・強化を目指して参画。

・Web サイト構築への協力・支援を行った。

## 6. 大阪びんリユース推進会議（2014 年 2 月 19 日設立）

### Ⅲ.総会の開催状況

#### 第 13 回通常総会の開催

2016 年 6 月 26 日 13:30～17:00

大阪府環境情報プラザ 研修室

総会後に天神祭ごみゼロに向けて講演会とボランティア説明会の開催

講師：太田航平さん（祇園祭ごみゼロ大作戦副実行委員長：ecotone 代表理事）

参加者：36 名

### Ⅳ.理事会の開催状況

第 1 回理事会 5 月 18 日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

第 2 回理事会 6 月 26 日／大阪府環境情報プラザ・研修室

第 3 回理事会 7 月 27 日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

第 4 回理事会 9 月 12 日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

理事連絡会 11 月 7 日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

第 5 回理事会 2 月 1 日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

第 6 回理事会 3 月 23 日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

### Ⅴ.会員状況

正会員 団体 14

正会員 個人 9

賛助会員 団体 0

賛助会員 個人 5

2016 年度から団体正会員増 4 減、個人正会員 1 減、個人賛助個人会員増減なしとなっている。